



# 【どうすれば福井県内の小学校で ALTと児童の交流を増やすことができるか】

福井県立武生高等学校

2020年度からの小学校英語教育の必修化に伴い英語嫌いの小学生が増えている。私達は学問的な正しさを求める授業が英語嫌いの要因と分析し、ALT(外国語指導助手)との交流が英語への親しみを促進すると考えた。福井は児童数あたりのALTの数が日本一だが、児童との交流機会は他県と比べ不足している。そこで、県内の小学校の協力を得て、児童が気軽にALTと交流できる「ALTスタンプラリー」という企画を実施し、実施前後で行ったアンケートの結果からALTと児童の交流、英語に対する児童の意識に効果が見られたかを分析した。

**中学生レベル**  
学問的な正しさを求められるから

**背景**  
英語嫌いの小学生の増加  
⇒小3→小6で英語好きが **16%pt減**

## 英語好きの小学生を増やしたい !!

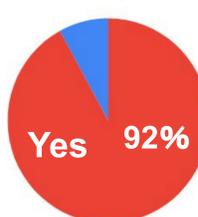
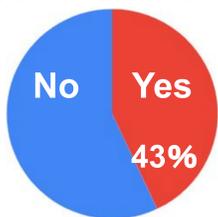
学問的な正しさにとらわれないよう、英語の楽しみを知ってもらおう！

### 現状調査

《福井県》  
生徒あたりのALTの数が日本一  
授業外活動へのALT参画率が低い  
休み時間にALTと全く話さない児童 **33%**

### 《アンケート》

「英語は得意か」「ALTとの会話は楽しいか」



英語が苦手でも交流は楽しい!!

### 《インタビュー》

【日本人教師】  
・ALTと児童を繋ぎたい  
・時間がない



【ALT】  
・仲良くなりたい  
・児童から来て欲しい

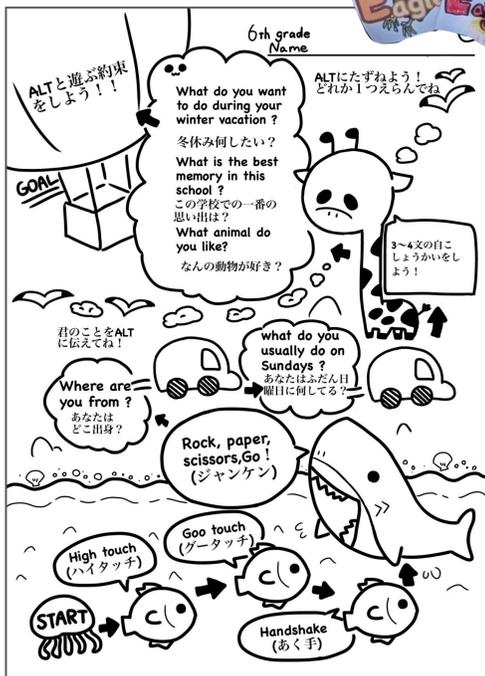
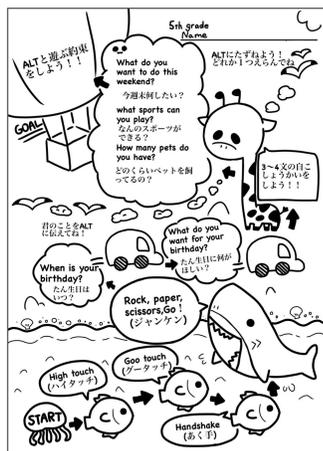


みんなが、ALTのもとへ自分から行けるようにきっかけを作ろう！

## ALTスタンプラリー

**(対象)**  
小学5、6年生  
正しい英語でなくてもOK  
関わりに行けば合格！

**(内容)**  
海=Lv.1 非言語交流  
陸=Lv.2 自己紹介  
空=Lv.3 ALTに質問



## 考察・今後の課題

### 《考察》

義務教育の小学校の中で授業の効果を高めるためには、楽しみながら英語を学ぶことが欠かせない。ALTスタンプラリーは、ALTと話すことに不安を感じる生徒が減り、児童が授業に積極的になった点でいい影響を及ぼしたといえる。よってALTスタンプラリーによって児童とALTの交流のきっかけを作れば、児童はALTとの交流を通して楽しみながら英語に親しむことができ、苦手意識の解消、学習意欲の向上につながると考える。

### 《課題》

ALTスタンプラリーを実施してから期間が経ってもALTと小学生の交流が続いているのかという長期的な効果を検証したい。また、この企画をより多くの小学校に拡大するために景品や紙をより効率的に準備する方法を検討する必要がある。

## 結論

福井県の強みであるALTの多さを生かすには、ALTとの交流に対する児童の苦手意識をなくし、児童が積極的に関わりに行ける環境を作ることが大切である。したがって私たちは、福井県の小学校英語教育において、ALTを活用するための一案として、「ALTスタンプラリー」を提案する。

## 結果

### A小学校

小学5、6年生(199人)  
11月28日～12月12日  
(毎週木曜日):3回



### B小学校

小学5、6年生(92人)  
1月17日～1月31日  
(毎週金曜日):3回



参加率 **36%pt 増**

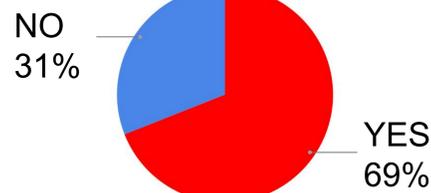
✓景品が好評だった → Lv.1から景品を渡す  
✓児童が忙がしすぎた → 忙しい時期を避ける

### 《アンケート》

ALTと話すのに不安を感じるか

**77人** 実施前  
17人減  
**60人** 実施後

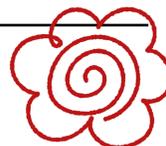
これからもALTに声をかけたいか

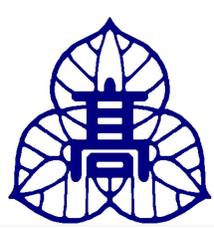


### 《インタビュー》

【ALT】  
授業も活発になった！

【日本人教師】  
児童が自発的に行ってくれた！





# 【福井県内の小学校英語教育にALTをどのように活用すべきか】

福井県立武生高等学校 山本和奏 河野光希 小山澄馬 馬上免瑞季

2020年度から英語が必修化され、小学3年生から学び始める一方、英語嫌いの児童が増加している。また福井県はALTの数が日本一多いにもかかわらず、授業外での活用が少ない現状がある。本研究では、ALTを活用して教育の質を向上させ、英語を好きな児童を増やすことを目的とし、意識調査やインタビューを実施した。また、ALTと児童の交流を促進する企画を進め、その効果を分析する。

## 背景

### 英語嫌いの小学生の増加

↳小3→小6で**16%減**

### 英語好きの小学生を増やしたい！

《SDGs》



地方・都会の教育機会差

親の経済格差→教育格差

につながる

## 現状調査

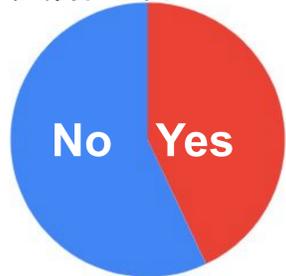
《福井県》

生徒あたりのALTの数が最多

授業外活動へのALT参画率が低い

《アンケート》

英語は得意か ALTとの会話は楽しいか



英語が苦手でも交流は楽しい!!

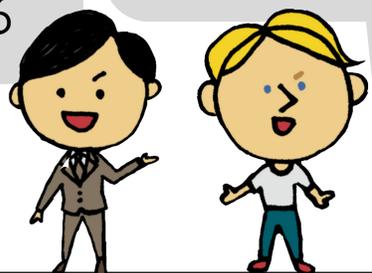
《インタビュー》

【日本人教師】

- ・ALTと児童を繋ぎたい
- ・時間がない
- ・活動は色々している

【ALT】

- ・仲良くなりたい
- ・児童から来て欲しい



みんなが、ALTのもとへ

自分から行けるように  
きっかけを作ろう！

## 結論

授業内外での交流を通してALTと人としての絆を深めることが必要不可欠で、普段の会話を通して楽しみながら英語を学び、苦手意識の解消、学習意欲の向上に繋げることが出来る。そこで、ALTと児童の交流のきっかけを作る一つの手段として、「ALTスタンプラリー」を提案する。

## ALTスタンプラリー

(対象)

小学5、6年生

(内容)

3つのレベル

海=Lv.1 非言語交流

陸=Lv.2 自己紹介

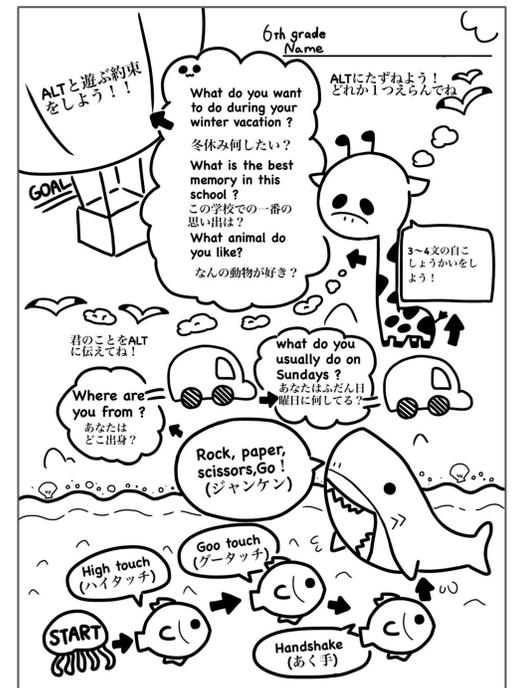
空=Lv.3 ALTに質問

(目的)

正しい英語でなくてもOK

関わりに行けば合格！

(賞品)



## 結果

《アンケート》

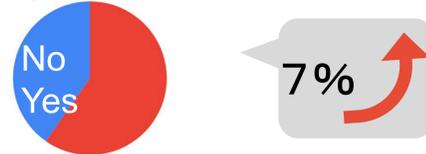
英語は好きか



ALTとの交流は好きか



ALTと話すのに不安を感じないか



効果あり！

《インタビュー》

・沢山の児童が来てくれた！

・授業中も活発になった！



## 考察・今後の課題

《考察》

検証期間が短く小学生も忙しい時期だったため、企画に参加できない児童も少しいた。また割合で見ると変化が小さく効果について断言することは難しいが、ALTと話すことに不安を感じる生徒が減り、授業に積極的になった点ではいい影響を及ぼしたといえる。

《課題》

単純に企画に乗り気でなく参加してくれなかった児童もいるので他の企画を試したり、ミッションの内容を徐々に難しくして長期的に児童の意識変化を調べたりするなど、ALTと児童の交流の方法を模索したい。